

講義名	研究演習（経・人）		
講義コード	45207	授業形態	
担当教員	上瀬 真生	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 5時限
		オンライン・コード	SEM250

学部・学科	演習分野
経済学部 経済学科・経済情報学科	上瀬真生ゼミナール(社会保障論)

概要説明

(1) テーマは「キャリアの展開と社会保障」。キャリアという言葉は、最近は職業人生を意味する言葉として使われることが多い。けれども、ここでは広く人生の展開を意味するものとして考えたい。その焦点は、たしかに一つには職業人生である。しかし、もう一つ、重要な焦点がある。それは家族の形成だ。職業人生と家族の形成。この二つを中心におきながら、現代日本社会におけるキャリアの展開を考え、さらにそれを支える社会保障のあり方を考えるのがこのゼミナールのテーマだ。

職業人生と家族の形成を二つの柱としたキャリアの展開は、これから皆さんが直面する課題だ。皆さんはなんとなく商標をはじめとした身近な大人をモデルにこの問題を考えているかもしれない。けれども、20世紀末以降、日本社会におけるキャリア展開のあり方は大きく変化しているように見える。就職活動における「氷河期」と「売り手市場」化とのブレ、転職の増大、晩婚化・非婚化、少子化、等々。変化を感じさせる諸現象が新聞紙上、テレビのニュースでおどつている。このゼミナールでは、こうした諸現象の実態、背景・要因、これに対応するための社会保障のあり方などについて皆さんと一緒に考えていきたい。このことは、皆さんが自分のキャリアを構想するうえでプラスになると思う。

なお、この問題にアプローチするにあたって、文献資料をもとに考えるだけでなく、インタビュー等をつうじて、できるだけ実際のキャリア展開の経験をもとに考えるようにしたい。

(2) ゼミナールのステップ
研究演習（2回生後期）
テキストの検討を中心にして、現代日本のキャリア展開についての見直し、さらには考えるべき問題や考える方法について学ぶ。同時に、資料の調査や発表、議論の仕方など、ゼミナールのための基本的な技術を身につける。また、新聞を読む習慣を身につける。2回生終了時にレポートを作成し、半年間で学んだことを振り返る。

研究演習（3回生）
前期はテキストの検討を続けるとともに、流通科学大学の先輩や身近な人生の先輩のキャリア展開についてインタビュー調査し、その結果をもとに現代日本におけるキャリア展開の実態とそれに対応する社会保障のありかたについて考える。また、これまでの学習をふまえて、各自、卒業研究のテーマを決定する。後期は、各自テーマに沿って研究を進め、その進展状況を報告する。3回生終了時に卒業研究の第一次草稿（3回生レポート）を提出する。

卒業研究（4回生）
3回生時の第一次草稿をもとに卒業研究をしあげる。進路相談も実施。

(3) テキスト
ゼミ生が確定した後決定する。現在の3回生が検討したのは以下の文献。
中西新太郎監修 『フツーを生きぬく進路術 17歳編』青木書店、2005年
中西新太郎監修 『フツーをつくる仕事・生活術 28歳編』青木書店、2007年

主な卒業論文のタイトル

「『聖地巡礼』が起す経済効果」
「学生アルバイトの実態 流通科学大学と全国調査の比較」
「介護職の現状と今後について」
「児童虐待について」
「過勤とは何か」
「睡眠について」
「ゲームが見せる社会現象と影響力」
「外国人留学生の就職率引上げのために」
「ジェンダー問題と共に歩む男性像」
「ユニチューバーについて」
「コロナ禍のGOTOトラベルによる経済への影響」
「エリートビジネスマンはなぜ筋トレをしている人が多いか」
「子どもの貧困の現状」
「公的年金制度の将来性」
「日本の食品ロス問題について」

教員よりの要望

毎日、新聞を読むこと。世の中の動きを知っていることは、これからの人生選択にとって大切な土台。10分でいいから毎日必ず新聞の一面に目を通してほしい。

できるだけ本を読むこと。本は、自分の直接の経験をはるかに越えて経験の幅を広げる。本を読むことに時間を使ってほしい。

自分の意見はっきり述べること。これからの世の中、自分の意見を述べなければ生きていけない。他人の意見をよく聞き、同時に自分の意見をきちんと述べる人間をめざしてほしい。

活動的であること。積極的、活動的、つまり元気いんなことにチャレンジしてほしい。学生時代は短い。充実した学生生活をおくってほしい。

卒業研究をおこなうこと。卒業研究は学生時代の最大の事業。これをやらないと大学時代は終わられない。

選考方法

基本的に「来る者拒まず」。ただし、「ゼミ運営の主体は学生だ」という意識をもって積極的にゼミで自分の力を発揮しようとする人に来てほしい。選考が必要な場合（志望者が15名程度を超える場合は）個別ガイダンスでの面接による。

3回生時の編入についても同様。

評価方法
研究演習： 日常のゼミ活動とかんたんなレポートで評価する。 研究演習： 日常のゼミ活動と卒業論文をみずえた3回生レポートで評価する。 卒業研究： 卒業論文で評価する。

教員英字氏名	研究室
KOTAKI, Masao	研究棟 2613研究室

最終学歴
京都大学大学院経済学研究科博士後期課程学修退学

学位
経済学修士

主な研究活動・社会活動・研究業績

1990年代後半以降の日本経済の変化の中で企業がどのような雇用・人事戦略を展開したか、そのなかで働く人々の労働と生活がどのように変化したが、を中心に研究している。その成果は以下のとおり。

『ウズCOVID-19の経済』『唯物論と現代』2021年10月
『資本のもとで働く』『経済』2015年5月
『資本主義のしくみ』『資本論』を基礎に現代資本主義を考える。京都労働者学習協議会、2013年10月
『法廷研究会・資金論の現代的展開を考える』(上)(中)(下)『経済』2007年8月～10月
『総額人件費管理と労働者生活・現代の賃金と労働者の世代的再生産』『経済』2005年2月
『賃金制度の変化と社会的な収入再分配の課題』『流通科学大学論集 - 経済・経営情報編』第12巻第3号、2004年3月

趣味・特技

映画鑑賞。京都の小さな映画館でマイナーな映画を見るのが好き。2020年度以降、大学における新しい生活様式への対応に追われ、なかなか映画を見ることができなくなった。その間、Amazon Prime Video や NHK オンデマンドで古い映画やドラマを鑑賞して、わずかな溜いを得た。

歌うこと。通勤途中や帰宅途中、歌いながら歩いている。ちょっとあやしい人と思われているかもしれない。

お酒。夜のおいしいお酒は大切なお友だち。

所属
経済学部 経済学科

所属学会
社会政策学会、経済理論学会

専門分野
日本の社会保障、生活問題、労働問題

担当科目
教養特講（働くことを考える）、経済学入門、社会保障論、日本経済論

備考

【ゼミ生からのメッセージ】
上瀬ゼミでは毎週新聞を読み、記事を取り上げて、それらについて考えを深めることを主とした活動をしています。週ごとによって読む新聞が変わりますが、新聞によっての違いもよく分かります。さらには、時事問題についても詳しくなれるのではないのでしょうか。このように、「今」起きていることを知ることも出来るゼミです。（2023年度研究演習 ゼミ生）

上瀬ゼミでは、テキストや文献、インターネットなどから「大学・就活・仕事」について調査・観察をして、それらについての知識を深め、最終的には自分たちでテキストの要約文を作成し議論をするという活動を行っています。避けては通れない就活のことを、無理に詰めすぎず自分のペースで学ぶことができるので、「いずれ就活をしなくちゃいけないのは分かっているけど、まだ全然考えられていない」と悩んでいる方にオススメです。（2023年度研究演習 ゼミ生）

このゼミは主に人生のキャリア形成について学んでいくゼミです。3回生では結婚や就職など人生のキャリアにおける大きな出来事を持ったテキストを読み、ゼミの中で4-5のグループに分かれまとめるといった活動を行います。2023年度は夏休みに京都の観光問題をテーマに研修旅行を行いました。比較的少人数で活動しているので同じゼミ生同士の交流もしやすくなっています。（2023年度研究演習 ゼミ生）

実務経験の有無及び活用
なし。